東北学院大学地域共生推進機構

連続講座 震災と文学

〈2013年度全5回〉

熊谷達也

2013年10月25日(金)　18:00～19:30

「小説に何ができるか～仙河海市の物語を通して～」

和合亮一

2013年11月8日(金)　18:00～19:30

「『詩の礫』から『廃炉詩篇』へ」

鎌田慧

2013年11月22日(金)　18:00～19:30

「東北と原発の40年」

若松丈太郎

2013年12月6日(金)　18:00～19:30

「3.11以前、福島の反原発詩歌」

玄侑宗久

2014年2月17日(月)　18:00～19:30

「無常を生き抜く」

会場／東北学院大学土樋キャンパス　5号館521教室

入場／無料

【主催／お問合せ・お申込み】

東北学院大学地域共生推進機構

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL/022-264-6424　FAX/022-264-6364　Eメール/kikou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

＊席に限りがございますので事前のお申込みをお勧めいたします。申込者の氏名・住所・電話番号・年齢（お持ちの方はEメールアドレスも）をご明記の上、ハガキ、FAX、またはEメールにてお申込みください。5回連続でも1回ごとでもお申込みいただけます。

東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

企画主旨

3.11の東日本大震災は、未曾有の災害と言われる。しかし未曾有ではない。この大震災は私たちの生の組み立て方に深刻な反省を促した。戦後に私たちが受け容れてきた生の枠組みについての反省である。こうした枠組みについての反省を、すでに800年前の日本の文学が行っている。平安から鎌倉にかけてのその時も、深刻な天変地異があり、そして人災としての戦争があった。人々は生きることを問い直し、そして綺羅星のような数々の生の形を作り出した。その形が日本人の精神的骨格を作り出している。

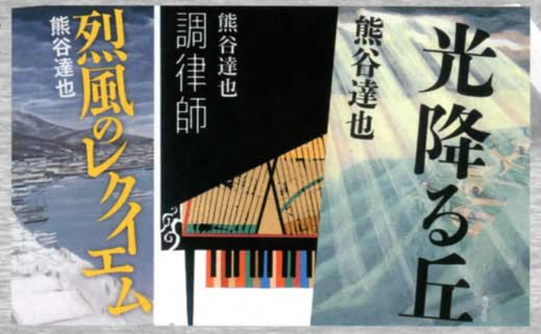
あの時代と同じ問いの前に、私たちは再び立たされている。私たちもまた、生きる形を問い直し、新しい軌跡を作っていかねばならない。文学は、今を生きる人々の生きる形の模索とならねばならないだろう。震災が機縁となって私たちに考えることを強いたこの問いを前にし、私たちはここに〈震災と文学〉という考える場、生きる形を問う場所を設けたいと思う。

佐々木俊三（東北学院大学副学長・同大学地域共生推進機構機構長）

熊谷達也　2013年10月25日(金) 18:00〜19:30

「小説に何ができるか〜仙河海市の物語を通して〜」

くまがい・たつや◎作家。1958年、宮城県仙台市生まれ。仙台市在住。東京電機大学卒。著書に『ウエンカムイの爪』（小説すばる新人賞）、『漂泊の牙』（新田次郎賞）、『邂逅の森』（山本周五郎賞／直木賞）など。東日本大震災後は、岩手・宮城内陸地震の被災地を描く『光降る丘』や函館大火などをテーマとする『烈風のレクイエム』、主人公が震災を体験する『調律師』を刊行。震災後の気仙沼市をモデルとした『潮の音、空の色、海の詩』を河北新報に連載中。



和合亮一　2013年11月8日(金) 18:00〜19:30

「『詩の礫』から『廃炉詩篇』へ」

わごう・りょういち◎詩人。1968年、福島県福島市生まれ。福島市在住。福島大学卒。福島県立保原高校教諭。『After』（中原中也賞）、『地球頭脳詩篇』（土井晩翠賞）など。東日本大震災1週間後からツイッターで膨大な「言葉」を発信。『詩の黙礼』、『詩の礫』、『詩の邂逅』の詩集3部作として結晶した。その後も、『私とあなたたここに生まれて』、『ふるさとをあきらめない』、『ふたたびの春に』、『詩の礫　起承転転』、『廃炉詩篇』などを発表。

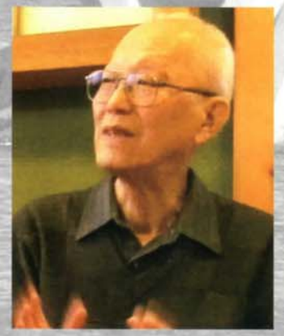
鎌田慧　2013年11月22日(金) 18:00〜19:30

「東北と原発の40年」

かまた・さとし◎ルポライター。1938年、青森県弘前市生まれ。東京都在住。『反骨 鈴木東民の生涯』（新田次郎賞）、『六ヶ所村の記録』（毎日出版文化賞受賞）など。東日本大震災後は『日本の原発危険地帯』、『原発暴走列島』、『ルポ下北核半島』、『さようなら原発の決意』、『怒りのいまを刻む』、『石をうがつ』を刊行。40年前から原子力発電所建設に警鐘を鳴らし、原発廃止をめざす運動「さようなら原発　100万人アクション」の呼びかけ人の一人でもある。

若松丈太郎　2013年12月6日(金) 18:00〜19:30

「3.11以前、福島の反原発詩歌」



わかまつ・じょうたろう◎詩人。1935年、岩手県奥州市生まれ。南相馬市在住。福島大学卒。福島県内の高校の教員となる。南相馬市埴谷島尾記念文学資料館調査員。著書に『詩集　海のほうへ　海のほうから』（福田正夫賞）、『詩集　北緯37度25分の風とカナリア』、、『福島原発棄民』、『福島核災棄民』などがある。十数年前に書かれた「神隠しにあった街」や「みなみ風吹く日」などが、福島第一原発事故を予言した詩として注目を浴びた。

玄侑宗久　2014年2月17日(月) 18:00〜19:30

「無常を生き抜く」

げんゆう・そうきゅう◎作家。臨済宗妙心寺派福聚寺住職。1956年、福島県三春町生まれ。三春町在住。慶応義塾大学卒。著書に『中陰の花』（芥川賞）、『般若心経　いのちの対話』（文藝春秋読者賞）など。東日本大震災後は、福島第一原発事故の発生した福島を舞台とした小説『光の山』のほか、『無常という力』、『福島に生きる』、『生きる力』などを刊行。また、政府の復興構想会議委員を務め、2011年11月の「ふくしま会議」では共同代表を務めた。

【東北学院大学地域共生推進機構とは】

共生の大地 東北のために

東日本大震災を経験して後、地域に対して大学が果たさなければならない役割が明確となりました。第一に、災害復旧に果たす大学生ボランティアの役割、第二に、疲弊した地域の産業復興に果たす媒介者の役割、第三に、地域研究を通して地域のあるべき姿を構想していく役割、そして第四に地域を構成する種々の階層の人々と共生を目指していく役割。これらの役割を果たしつつ、地域に深い貢献を成し遂げるために、東北学院大学は地域共生推進機構を設立いたしました。

■まちづくり／減災クラスター支援部門

・S＆CC（スマート＆コンパクトシティ）構想実現に向けた動き
・企業との連携による研究の促進
・企業への技術支援および高齢者の生涯学習と仮設住宅支援

■地域を担う人材の育成／地域人材育成・教育研究支援部門

・東日本大震災による仮設住宅（みなし仮設住宅を含む）に居住する住民に、全学部の聴講課目を無料で提供
・カリキュラムにおけるキャリア養成の内容と実質的担当者の策定
・経済界および同窓会との連携による、企業を担う人材の横断会議
・就職支援への教員の協力意識の涵養
・仮設住宅在住の高齢者の勉学意欲開発とその環境設定
・防災教育推進
・既実施の公開講座・講演会のとりまとめ

■ボランティア　地域福祉／市民協働部門

・災害ボランティアステーションにおける活動の充実と展開
・ボランティア活動とフィールドワーク単位化の全学への拡大
・小学校外国語教育の支援
・地域社会とのスポーツ教育の可能性模索

■多様な人材によるコミュニティ創造／多文化共生・国際交流部門

・各レベルの外部機関との連携による多文化共生の現状把握と課題解決支援
・本学における国際交流の戦略策定と活動支援
・災害ボランティアステーションとの連携模索

JR「仙台駅」から徒歩20分。地下鉄「五橋駅」または「愛宕橋駅」から徒歩5分。バス停「仙台市立病院」前から徒歩5分
※一般用駐車場はございません。ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

企画・コーディネート／有限会社荒蝦夷